

株式会社ジェイコム埼玉・東日本 川口・戸田局 2022年度放送番組審議会 報告

本審議会は、コロナウィルス感染拡大防止のため、アンケート方式での回答とする。

<放送番組審議会委員>

石田 万友実 様、鈴木 茂三 様、住野 昌洋 様、田中 治夫 様
吉川 みどり 様、若谷 陽子 様

(50音順)

<事業者：株式会社埼玉・東日本 川口・戸田局>

局長 山家 聡、管理部 部長 小野澤 卓也、地域プロデューサー 齋藤 達志郎

<事業者：株式会社 JCOM J:COMプロダクション本部 映像制作第一部>

埼玉ニュース報道グループ マネージャー 大橋洋一
埼玉ニュース報道グループ さいたま事務所 北條英行

1. LIVE ニュースをご覧になってのご意見

【石田委員:LIVE ニュースについて】

まちなかスタジオ、多様なゲスト、多様なジャンルも大変よい。そして「地域密着」というコンセプトにブレが無く、制作側の努力が伝わってくる番組だと思う。

【鈴木委員:中継場所について】

まちなかをコンセプトとして番組で、番組に対して親近感を感じさせる狙いであれば、通行人は殆ど関心を持たずに歩行しており、番組を視聴している側も外での放映は商店が絞り難く外で番組放送する効果が無い。地域ケーブル局として生放送を行うならば地域を回り、お店回りなどで情報を伝えたほうが良いと感じた。

【吉川委員:中継場所】

背景に人の往来があるのが少し邪魔に感じる。例えばキャスターの顔出しが無くてもしっかりとした話題があれば近くのリリアパークの映像等でも良いのではないかと感じました。

【吉川委員:テーマについて】

「2023年川口はどう変わる!？」は大変興味深いテーマでした。
特に若者による新ビジネスの形態もう少し深く、楽しく伝えてほしいと思いました。
(例えば川口ならではの特徴なのか?等)

【住野委員:スタジオについて】

地域話題をその地域の人々の声を交えて発信していくことは大変意義深いと思う。
「まち」がスタジオであるというコンセプトは地域密着の放送局の強みであり継続してほしいと思う。

【若谷委員:内容について】

地域の皆さんの見たいこと、知りたいことを伝えるという姿勢が隅々まで感じられた。
私が知らない情報を、番組を通じて知ることができ、また内容も専門の立場の方からの
解説・分析を入れ込むことで観ている人に一層の興味や知識を与えることに役立っていると
感じる。

【制作担当から】

毎回特定の決まった場所から番組をお送りすることは、J:COM 番組の定着を狙った
「LIVE ニュース」当初からのコンセプトであったが、いただいたご意見の通り市内の
色々な場所に「行って」そこから番組をお送りすることも地域番組としては非常に重要と
感じる。現在は内容に合わせて駅前のキーステーションでお送りするか、もしくは都度現
場に行ってお送りするかを使い分けている。効果を見ながら検証していきたい。

川口的话题をより多角的にお送りしたい事から、今回は川口経済新聞のご協力をいた
だいて企画をした。我々には伝えられない側面から川口的一面をお送りできたことは良
かったと考える。

これからも「地域密着」を主眼に、様々な企画に挑戦してゆきたい。

2.「コミュニティチャンネルの取り組み」をご覧になったご意見

【石田委員:全体について】

コミュニティチャンネルも埼玉に据えバラエティからスポーツ、経済、防災などと極めて重量なチャンネルであり視聴者に対して安心感を与えつつ知的好奇心を刺激してくれます。視聴者を飽きさせない番組構成で一度観たらもっと観たくなるそんな番組構成だと思う。

【鈴木委員:地域密着について】

「ど・ろーかる」のコンセプトは地域ケーブル局としては非常に大事であり、地元のテレビ局というイメージを持ってもらうためには地域情報の発信は継続してもらいたい。川口市は新しい住民が移住しているため、長く住み続けてほしいと考えており、そのためにも地元ケーブル局として強力な情報発信をお願いしたい。

【田中委員:取材について】

コミュニティチャンネルは自分たちが住み地域を身近に感じられるチャンネルだと思う。これからも地域情報の発信もお願いしたい。

【吉川委員:番組について】

- ・川越まつりなどのイベントを家庭で観ることが出来、外出もままならない中とてもありがたいと感じた。画もとてもきれいで感動しました。
- ・「ジモトに乾杯」は、普段会社名は知っていてもお話を聞くことができない社員さんの人柄や考え方がよくわかりとても好きな番組です。ゴルゴさんの進行も良い。
- ・個人的には被り物や過度のおふざけは楽しい画とは思えずかえってもったいない様に思います。

【住野委員:役割について】

地域密着の放送局として大手メディアでは取り上げにくい話題でも放送してもらえ、地元への愛着を育む上でとても有用な役割を果たされている。

【若谷委員:埼玉の逆襲について】

コンセプトもわかりやすく、タレント起用も適当で内容も楽しい。その時、旬なイベントとのコラボもそれぞれの知名度向上など相乗効果が得られると感じた。

【制作担当から】

埼玉の地域特性を生かしたラインナップで、J:COOM ならではのコンテンツを揃えられるよう注力している。特にイベント・祭りなどの生中継は注目度も高く、期待されている番組なので、今後も力を入れていきたい。

また、今後はさらに J:COM スタイルで「安全・安心」の街づくりに寄与できるような取り組みにより一層力を入れていきたいと考えている。

以上